

【議 事 録】

会議名 : ジャパン・クラウド・コンソーシアム (以下 J C C) 第 3 回農業WG

日 時 : 平成 2 3 年 5 月 2 6 日 (木) 1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0

場 所 : 富士通総研 N セミナー会議室

参加者 : 別紙メンバーリスト参照

配布資料 : ① 第 3 回農業WG 次第

② 第 3 回農業WG 参加者リスト

③ 第 2 回WG 概略報告

④ イーラボ・エクスペアレンス様資料

⑤ トーマツ様資料

⑥ N T T 西日本様資料

概 要 : J C C 第 3 回農業WG として、以下について打ち合わせを実施

① 事務局より第 2 回WG (大分、宮崎両県様現地ヒアリング) 概略報告

② 総務省実証実験に向けた 3 社様からのご提案に関する討議

③ 農業クラウド実現に向けて、各ベンダ[®]における技術的課題について

④ 平成 2 4 年度後半に向けて、各社様にご提供可能なアプリについて

⑤ 第 4 回農業WG について

議 事 : 以下敬称略とさせていただきます

(事務局)

事務局より第 2 回WG (大分、宮崎両県様現地ヒアリング) 概略報告

【テーマ 1 : 農業クラウド実現に向けて、各ベンダ[®]における技術的課題について】

(富士通 深谷)

現地ヒアリングで I T に期待するものは収量の増加等であった。

(大分県 清水)

農業分野における I T の導入には目に見える効果が必要で、県の普及員に I T を活用して欲しいと考えている。九大と共同でイチゴ農家をフィールドとした事業を実施したが、データの解析は出来ていない。

(富士通 深谷)

現地ヒアリング時の大分県からのご意見では、大規模経営では良いか小規模経営農業での効果が見えないと、県としては取り上げづらいとのことであった。

(大分 清水)

ある程度 I T が広がれば、センサを設置しなくてもデータで営農指導が出来ると思う。

(N T T 西 濱浦)

大半の個人経営小規模農家にコスト負担をしてもらい、展開するのは現時点では厳しい。今は、大規模経営農家のモデル作りを増やしていくフェーズであるというのが実感。

(リコー 黒田)

生産者の方のお話を伺うと、出来ることはやっているようだ。ITありきではなく課題の整理が必要と考える。

(農水省 川原)

ITでなければつなげられないもの、農業だけではなく加工・販売も含めWIN-WINになる仕組みが必要。他産業との連携や地域ぐるみのプランがあれば知りたい。

(富士通 深谷)

農水省生産局が、安価で手離れが良いクラウドを営農指導用ツールとして興味を持っている。県普及員の方に小規模経営農家の方との橋渡しとなって欲しい。

(大分県 清水)

県の普及員の中にも、データを活用した新規就農者や個々の農家へのレベルの高い指導に興味を示す人もいる。自宅からカメラで生育ステージ毎に確認できると良い。

(宮崎県 大久津)

宮崎には生産法人が3~400あり、社長の勘と経験で営農しているが、人の管理まで手が回らない状況になりつつある。宮崎は農業県のため、農業が経済の基本であり、経営、生産、販売、流通の見える化の勉強会を始めている。DBがそれぞれ単独で、相互に見えていないのが課題であり、再構築・利活用したい。その際、個人情報の取り扱いがデータ統合や公開する場合の課題である。農地はあまり担保価値がなく、動産情報を共有できればWIN-WINの関係になるのではないか。また、始めの構築が出来ても管理・運用が上手く行かないのが課題。県の予算が厳しい中、クラウドは魅力的。

(宮崎県 海野)

個々にシステムを作り、後で統合するのが大変となるのは避けたい。統一的な公共サービスと創意工夫による付加価値部分は分けたほうが良い。独自システムより、信頼のおけるシステムの方が良いが、生産履歴等はある程度当たり前。ITだけでなく、IT+人という組み合わせでと取り組むべき。

(富士通 深谷)

JA、地銀、法人等が宮崎県のヒアリングに来られ、データの利活用に期待する意見もあったが、共通部分は公共で、オプション部分は受益者でという声も聞かれた。事務局がヒアリング後に地銀に個別訪問をしたが、畜産県である宮崎では動産担保にITの活用が期待できるのではないかとのことであった。JAについてはITの活用はまだ先では、という印象であったが、耕作放棄地対策には活用できるのではないかとのご意見であった。

(NTT西 濱浦)

水土里情報は縦割りで利用制限が多いので、技術面よりスキームが課題。元々土壌改良で整備したものであり、農外目的には使えないという制限もある。

(マイクロソフト 片山)

個人情報の取り扱いに関して、総務省のIT利活用懇談会の事例等はあるか？

(日立コンサルティング 宮澤)

当社では個人情報の検討を行っており、個人情報の制約で利活用ができないという点は興味深い。

(ビーイング 入倉)

生産関連の議論が多いが、GAP等、その場で実施するようなものもあるのではないかと大分の生産時のコミュニケーションツールや試験データの活用等、生産そのものでなく、関連業務を整理出来ればと考える。

(トーマツ 池松)

個人情報の何が問題なのか良く見えない。

(共栄火災海上 三宅)

新しい事業を立ち上げる際のリスク分析や東北の震災支援に農水省やJA、生協の遊休施設の活用にITが使えないか。

(IDC フロンティア)

安価・短納期であればクラウドの利活用も良いと思うが、農業でクラウドのメリットがあるか分からない。

(富士通 深谷)

コスト、ユーザのIT管理者としてのスキル、データのマッシュアップ、ベンチマーク等については、自己導入型での実現は困難。

(三菱商事 南田)

川上産業と川下産業をつなぐものがない。当社は北海道のじゃがいもで生産のIT化に取り組んでいる。

【テーマ2：平成24年度後半に向けて、各社様をご提供可能なアプリについて】

(イーラボ 島村)

6次産業化に向けたプラットフォームであれば、参加者がいるのではないかと。天候や災害に関するリスクに対応した保険を日本でも導入するという考え方もある。バイヤーに対する収量予測の提供なども考えられる。

(NTT西 濱浦)

まず、この場における守秘義務に関する契約等を共通の議題に挙げて欲しい。ITという意味では、携帯がつながりにくい場所、光が引けていない場所で、農業クラウドおよびネットワークなどの通信速度やアクセス数等の検証が考えられる。

(トーマツ 池松)

商品を絞って実証するのが良いのではないかと。センサで各種データを取ってみたい。Wi-Fiについては小型軽量化、低コスト化が必要と思う。また鳥獣害については全国的な関心事である。

(富士通 深谷)

来年度の予算は、総務省、農水省、経産省にご提案したい。総務、経産については普及に力を入れており、突っ込んだところまで持っていかないと予算化は困難。7月にJCCの中間報告会があり、各グループ10分程度の発表を予定している。各社の提案は主査から各省庁に報告し、反応をフィードバックする。次回WGは中間報告後の8月を想定。

(NTT西 濱浦)

省庁に対しては詳細な提案をせざるを得ず、WGで各社の前では機密の触れる部分もある可能性もあり、中々全てを出すことは出来ない。

(大分 清水)

具体的な部分はこのWGで出せないとの意見があったが、この場は大きな情報共有の場にすれば良いのでは？

(富士通 深谷)

JCC自体手弁当であり、詳細な調査・研究は厳しい。

(大分県 海野)

6次産業化のマッチングはハンドメイドでなされている。志のある方は自主的に活動されているが、その手前で埋もれている方を掘り起こし光を当てていきたい。但しそれを紙で行うのは限界があり、データ化できないだろうか。6次産業化は産地間競争ではなく、地域産業の活性化であるため、県域を越えて広く連携していく必要がある。今までの枠組みでは農業は守れない。そういう意味で、クラウドの面的・横断的な仕組みに期待したい。

以上